

製品名: WASP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19863**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	WAS
別名	WAS; IMD2; Wiskott-Aldrich syndrome protein; WASp
遺伝子 ID	7454.0
SwissProt ID	P42768
免疫原	抗血清はヒト WASP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 256-305

背景

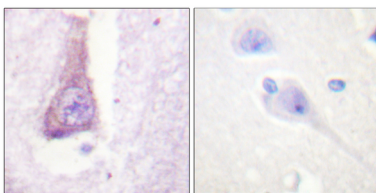
ウィスコット・アルドリッチ症候群 (WAS) タンパク質ファミリーは、類似したドメイン構造を共有し、細胞表面の受容体からアクチン細胞骨格へのシグナル伝達に関与しています。多数の異なるモチーフの存在は、これらのタンパク質が多数の異なる刺激によ

て制御され、多数のタンパク質と相互作用することを示唆しています。最近の研究では、これらのタンパク質が、アクチンフィラメントの形成を制御することで知られる低分子量 GTPase Cdc42、および細胞骨格形成複合体 Arp2/3 と直接的または間接的に関連することが実証されています。ウィスコット・アルドリッチ症候群は、免疫調節異常および微小血小板減少症を特徴とするまれな X 連鎖劣性遺伝性疾患であり、WAS 遺伝子の変異によって引き起こされます。WAS 遺伝子産物は細胞質タンパク質であり、造血細胞でのみ発現し、WAS 患者でシグナル伝達および細胞骨格の異常を示します。疾患: WAS の欠陥は、X 連鎖重症先天性好中球減少症 (XLN) [MIM:300299] の原因です。XLN は、反復性の主要な細菌感染症、重症先天性好中球減少症、および単球減少症を特徴とする X 連鎖免疫不全症候群です。疾患: WAS の欠陥は、血小板減少症 1 型 (THC1) [MIM:313900] の原因です。血小板減少症は、循環血液中の血小板数の減少によって定義され、出血が増加し、血液凝固能力が低下する可能性があります。疾患: WAS の欠陥は、湿疹・血小板減少症・免疫不全症候群としても知られる Wiskott-Aldrich 症候群 (WAS) [MIM:301000] の原因です。WAS は、湿疹、血小板減少症、反復性感染症、および血性下痢を特徴とする X 連鎖劣性免疫不全症です。通常、10 歳未満で死亡します。ドメイン: CRIB (Cdc42/Rac 相互作用結合) 領域は、タンパク質の自己阻害状態において C 末端 WH2 ドメインに結合します。Rho 型 GTPase が CRIB に結合すると、構造変化が誘導され、活性化が誘導されます。ドメイン: WH1 (Wasp ホモロジー 1) ドメインは、Pro に富むリガンドに結合する可能性があります。機能: Rho 型 GTPase のエフェクタータンパク質であり、アクチン細胞骨格の構造とダイナミクスを制御する Arp2/3 複合体との結合を提供します。効率的なアクチン重合に重要です。リンパ球および血小板機能の調節因子と考えられる。オンライン情報:WAS 変異データベース,オンライン情報:Wiskott-Aldrich 症候群タンパク質エントリ,類似性:CRIB ドメインを 1 つ含む。類似性:WH1 ドメインを 1 つ含む。類似性:WH2 ドメインを 1 つ含む。サブユニット: CDC42、RAC、NCK、FYN、SRC キナーゼ FGR、BTK、ABL、PSTPIP1、WIP、および PLC- γ の p85 サブユニットに結合します。Arp2/3 複合体に結合します。組織特異性:主に胸腺で発現します。また、ごく少量ですが脾臓にも存在します。

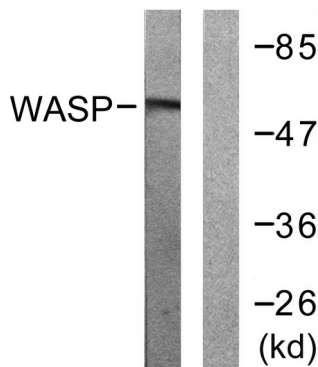
研究分野

ケモカイン;接着結合;Fc ガンマ R を介した貪食;アクチンと細胞骨格を調節;病原性大腸菌感染;

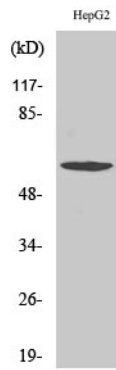
画像データ



WASP 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



WASP 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



WASP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。